

絆
さずな

大震災津波からの教育の復興に向けて ～県中学校長会の取組と学校は「今」～

岩手県中学校長会総会において、佐藤玄竜副会長（仙北中）より、東日本大震災津波から8年が経過した今、この間の県中学校長会の取組を振り返り、沿岸被災地域の中学校の「今」についての報告がありました。



1 岩手県中学校長会最初の一手

県中学校長会では、「岩手県は、『顔の見える支援』を！」を合言葉に、横軸連携・姉妹校連携の取組を進め、大震災津波直後の状況や横軸連携、姉妹校連携の取組をまとめた記録集「明日を見て 前を向いて」を編纂し発刊しました。さらに、3年が経過した平成26年3月に各学校や校長会の取り組み、生徒たちの活動の様子をまとめた第2集「未来への一歩を共に」を発刊しました。



また、平成23年8月、平成25年1月に支援対応に係る情報交換会を開催しました。

2 いわて震災復興パネル展

平成29年6月、花巻市で開催された第67回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会では、「震災を忘れない、風化させない」という思いを込め、被災した沿岸地区の中学校の状況をパネルで展示しました。研究協議会に参加した他県の校長先生方に復興の様子を伝えることができました。



3 全日中役員被災地訪問

これまでも全日本中学校長会からは、義援金をはじめ和太鼓の寄贈など、多大な支援をいただいています。平成30年7月、全日本中学校長会山本会長と役員3名が来県し、大槌町文化交流センター「お

しゃっち」と義務教育学校として設立された大槌学園を訪問し、釜石地区校長会との意見交換、その後、釜石鵜住居復興スタジアムを見学しながら地域の復興の様子についての情報交換を行いました。



4 学校は「今」

ベルマーク財団からの支援を活用した活動の様子、発災から8年が経過した宮古地区・釜石地区・気仙地区の生徒たちの様子を紹介しました。

【支援募金活動】



【復興道路開通に向けて】



【合同避難訓練】



【駅の看板・壁画デザイン】



【校庭開き】



【校庭で行われた運動会】



終わりに、時間の経過とともに被災各校の状況の多様化や、意識の風化が懸念されています。

横軸連携・姉妹校連携の精神を大切にしながら、県中学校長会158名の会員が一丸となって「学びの場」の復興に取り組んでいく必要があります。

今後も、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げまして、話題提供といたします。